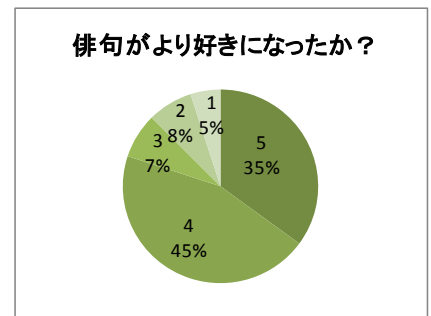
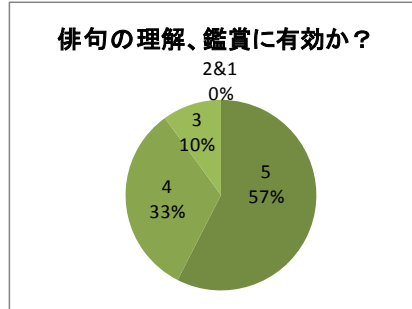
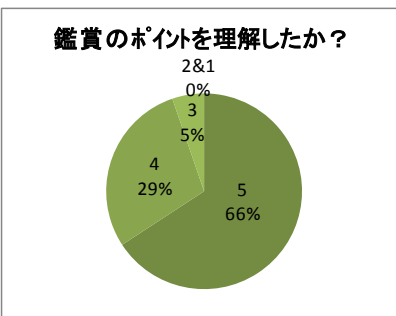
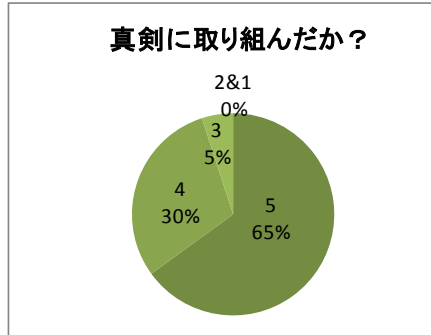
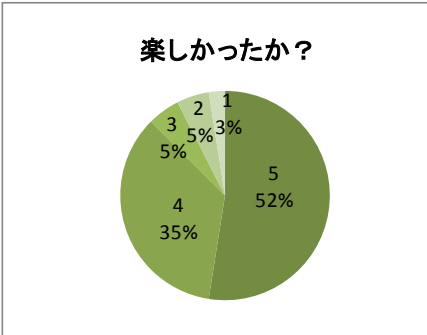


【参考】プレ学習&展開学習—名句はどっち？ めざせ一流俳句評論家—

の生徒の自己評価（授業評価を含む）と感想、及び、指導者まとめ

■生徒の自己評価（授業評価を含む）



■生徒の一言感想

- ・ほお〜と思った。俳句を作る人ってすごい。
- ・こんなに深いとは思っていなかった。
- ・プレ学習をして俳句についてもっと知りたいと思った。
- ・俳句って難しいなーって思ってたけど、おもしろい！！オモシロイ〜！！
- ・最初、授業やる前は、俳句なんて作れないし、見極めなんてできないし、意味分からんからつまらんわ〜って思ってたけど、やってみると楽しくて、だんだん見極められるようになってきてうれしいし、達成感が出ておもしろかった。
- ・俳句を鑑賞して、俳句への価値観が変わりました。
- ・十七文字の文章に多くの情報を詰めるだけではなく、わざと減らして想像力をかきたてたりもしていて、一単語に多くの意味があって楽しい。映像を見ているみたい。
- ・俳句は「五・七・五」という短い言葉で、風景を感じさせてくれるからすごいと思った。
- ・少ない文字数でここまで表現できるのはすごいと思いました。おもしろいと思います。
- ・俳句には、素材、表現、言葉が大切ということが分かりました。
- ・あまり興味はなかったけど、俳句を言えたらカッコいいと思いました（笑）
- ・自分も俳句を作りたいと思った。
- ・一字一句ちがうだけで、その俳句の世界観や広がり想像できるというのがすごいと思いました。俳句は深いなあと思いました。
- ・ひとつの俳句を勉強するより、比べて何が違うとか考えた方がよく理解でき、前より俳句について理解した。
- ・好きにはなっていないけど、おもしろいと思えた。
- ・クイズみたいで楽しかった。前より絶対俳句のことが分かった。
- ・初めて俳句の意味をじっくり考えることができた。
- ・いろんな俳句を見るのが楽しくなりました。

【指導者まとめ】

生徒の授業評価アンケートによると、ほとんどの生徒が、楽しく、意欲的に活動に取り組んでいた。また、当授業の「俳句の鑑賞のポイントを理解する」、「俳句の鑑賞のポイントを踏まえて俳句を味わう」という主目的も、約90%の生徒が5（大変よくできた）、ないし、4（よくできた）と評価していた。なによりも、感想に、「楽しかった」、「俳句に興味を持った」「俳句の見方が変わった」と答えた生徒が多くいるように、生徒が俳句に親しんでくれた、親しむ姿勢を持ってくれたことがうれしかった。

【参考】俳句の紹介文生徒作品例

咳をしても一人(尾崎放哉)

この句は、明治から大正にかけて活躍した俳人、尾崎放哉が創作した句です。

この句は、「病になってもやはり孤独」という孤独の深まりを表現した句です。この句には季語はありません。この句は、皆さんのよく知っている五七五で形成された俳句ではなく、無季自由律俳句という種類の俳句になります。

「咳をして《も》」というところで、孤独な日々を送るなかで体調を崩し、それを氣遣ってくれる人もいないという孤独の深まりを詠んでいます。この句からは、悲しさや寂しさがとても伝わってきます。この句を詠んだときの周りの静けさも感じ取れるような句ですね。これだけの短い句で自分の心境や現状を表現できる尾崎放哉は、すばらしい俳人だと思いませんか？

このように短い俳句でも深く考えていくと、作者のいろいろな思いが読み取れておもしろいですね。みなさんも自分の好きな俳句を見つけて深く読み取ってみてください。

啄木鳥や落ち葉を急ぐ牧の木々(水原秋桜子)

この句は、俳誌「馬酔木(あしび)」を主宰した水原秋桜子(みずはらしゅうおうし)という人が詠んだ句です。

この句の季節は秋です。季語は「落ち葉」と思いますがもしもありませんが、実は「啄木鳥(きつつき)」です。この句は、秋が終わっていく寂しさを詠んでいます。

この句に使われている修辞法(表現技法)は、切れ字と擬人法です。切れ字は「啄木鳥や」の「や」です。これを使うことにより、場面を切る、映像を分ける効果を得ることができます。これによって、この句ではまず、啄木鳥がコンコンとせわしなく木をつつく場面が見えます。また、「落ち葉を急ぐ」という表現が擬人法になります。これを使うことにより、落ち葉が散り急ぎ、秋が足早に過ぎ去っていくという情景をイメージさせます。

啄木鳥のコンコンコンという音が聞こえるなか、残り少ない落ち葉たちが啄木鳥のせわしない音と一緒に足早に全部落ちて、秋が過ぎ去ってしまう寂しさを感じ取れると思います。必ず秋はやってくる、そして去っていきます。去っていく秋を見ながらこの句を思いだし、作者の思いを自分を感じてみてはいかがですか。

かりかりと蟪蛄の克を食む(山口誓子)

この句は、大正時代から昭和初期に活躍した4Sの一人、山口誓子が詠んだ俳句です。4Sとは偉大な俳人(俳句を詠む人)四人で、名前にSが使われているということから付けられました。山口誓子も「セイシ」で頭文字は「S」になりますね。

この句は、自然界における生の厳しさを詠んだ句です。「蟪蛄」というのはカマキリのこと、カマキリが蜂のかわを食べているところを詠んでいます。「かりかり」という表現がありますが、とても乾いて聞こえますね。静かな感じであまりリアリティを感じません。ですが、そこがまた乾いた軽さから、いっそうの冷酷さを感じさせます。軽やかにかじることで逆に残酷で、当たり前の行為だからこそ生きるなかでの厳しさがそこには含まれています。こういう擬音語(かりかり、こんこんなど)には、イメージをふくらませる効果があり、イメージすることで残酷さがクローズアップすると思います。もう一つ、蜂の克(かお)の「克」というところですが、「顔」というのではなく、「克」という字を選んでいきます。ここでも、漢字の形から蜂のかわのイメージをふくらませていますね。

この句の季語は「蟪蛄」で秋です。私には、カマキリが冬眠に入る前に腹を満たそうとする必死さが伝わってきました。俳句を読んで、何が込められているのかを読み解くのは難しいですが、考えてみると楽しくもなりますね。

柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺(正岡子規)

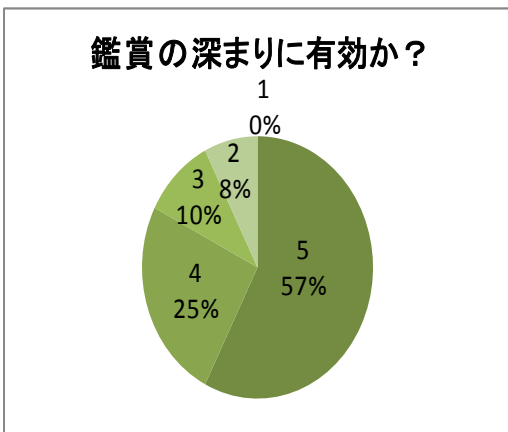
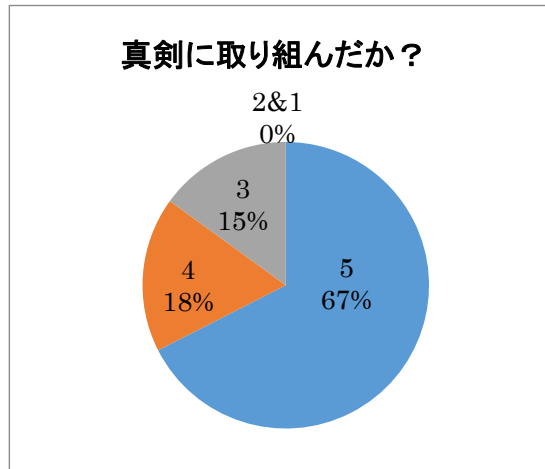
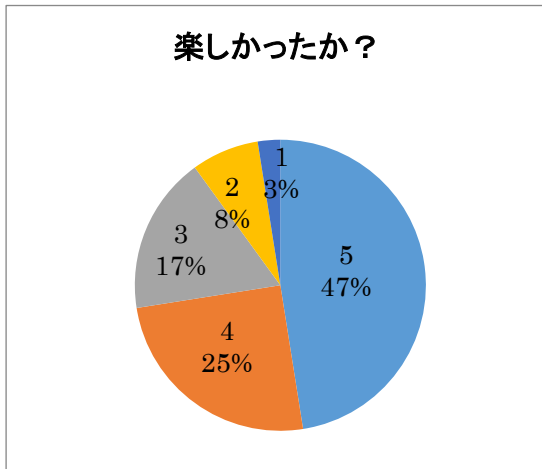
この句は明治時代の有名な俳人(俳句を詠む人)、正岡子規が創作した句です。正岡子規は、俳句革新運動をおこした人で、俳誌「ホトトギス」を主宰したことも有名です。教科書で習った人もいると思います。

この句は、「秋の日、柿を食べたとき、法隆寺の鐘がなったよ」という単純な内容ですが、「柿」の色が秋の夕暮れを示し、「鐘の音」がゴーンという響きを持たせ、手元の「柿」と遠くの「法隆寺」の近景と遠景の対比で、空間の広がりも表現しています。短い、少ない言葉で、夕暮れに家のなかで柿を食べている情景と、遠く夕暮れにたたずむ法隆寺、そしてそこから響く鐘の音を読み手に想像させ、秋の叙情を人の五感に感じさせるすばらしい句です。つまり、この句は「秋の夕暮れ、柿を食べながらぼんやりとしていると、遠くから法隆寺の鐘の音が聞こえる。そしてその音が響き渡るほどに、静かな秋の夕暮れを感じられたよ」という思いが読み取れます。現代では、夕方はテレビを付いたり、パソコンをいじったりと常に騒がしく、寺の鐘の音を聞くことも少なくなり、少し寂しいですね。たった十七文字で表される俳句ですが、そこに読み込まれた思いや心情は広く、深いですね。

【参考】発展学習—お気に入りの俳句を中学生に紹介しよう—

の生徒の自己評価（授業評価を含む）と感想、及び、指導者まとめ

■生徒の自己評価（授業評価を含む）



■生徒の一言感想

- ・本当に中学生が読んで理解してもらえないかわからないけど、いちおう分かりやすいように書けたと思います。
- ・分かりやすくその俳句のよさを分かってもらえるように書くことができて楽しかった。
- ・ことばを気をつけて書けた。
- ・授業で学習した表現を分かりやすくしようと考えた。
- ・説明することにより、さらに理解ができる。
- ・中学生に紹介するのに言葉を選ぶのが大変でした。
- ・説明するように文をつくって、相手が分かりやすいように考えるのは難しかった。
- ・分かりやすいように考えながら書けた。
- ・結構難しかったけど、楽しかった。

- ・楽しかった。・いかに分かりやすく伝えるかを調べながらできたので、自分の勉強にもなった。
- ・自分の作品のように、きれいに教えることができてよかった。
- ・中学生がわかるように、句の成り立ちや学習したことを思い出し、分かりやすく文を書けたと思う。
- ・中学生に紹介するのに言葉を選ぶのが大変でした。
- ・便覧で自分で調べたりして、より頭に入った。
- ・中学生に伝わるように、自分の気に入った俳句を紹介できたと思う。他にも調べてみたい。

【指導者まとめ】

生徒の授業評価アンケートによると、多くの生徒が、楽しく、真剣に活動に取り組んでいた。感想を読むと「難しかった」、「中学生に伝えるように書くのは大変だった」と多く生徒が書いていたが、そう書いている生徒のほとんどが、「楽しかった」「真剣に取り組んだ」と評価している。「自分が誰かに（とくに、自分より年下に）」、「自分が持つ知識を教える」、「自分の考えや思いを伝える」という場の設定は、生徒の真剣み（努力）や充実感を引き出すようである。当授業の「俳句の鑑賞を深める」という主目的も、約80%の生徒が5（大変よくできた）、ないし、4（よくできた）と評価しており、おおむね満足いく授業になった。